

(別紙5)

整理番号 2018P-165  
補助事業名 平成30年度 福祉機器の整備 補助事業  
補助事業者名 社会福祉法人 翠浩会

## 1 補助事業の概要

### (1) 事業の目的

当苑の主な利用者は重度の身体障害者で、介護による職員の負担は大きくなっていますが、リフトを活用する事でその負担を大きく軽減する事ができます。すでに、浴室にリフトを4台設置し、居室18台、トイレに1台設置していますが、128名の利用者に対して足りていない事が現状です。

また、リフトを導入する事で職員の採用を有利にできれば、現在勤務している職員も余裕ができ、利用者も適切な支援を受ける事が出来ます。

上記の理由から、介護リフトの設置は急務といえます。

当該補助事業により、入所利用者の居室に対し天井走行型介護リフト（I型）を3台新たに設置することで、

- ・老人介護事業と競合する障害者施設を魅力ある職場にすることによる人材確保
- ・現場職員の肉体的負担軽減による腰痛・リュウマチ・ヘルニア等の予防
- ・職員の肉体的負担を要因とする事故の防止による、施設利用者のリスク回避

つまり、支援員の負担を軽減し腰痛防止に努めると共に、利用者の安全を確保する事を目的とします。

### (2) 実施内容

#### JCLS介護リフトシステム

- ・天井走行型JCLS介護リフト（I型）システム
- ・数量：3台
- ・用途：施設入所利用者の居室へ設置
- ・運用計画：社会福祉法人 翠浩会 障害者支援施設新光苑内の、重度身体障害者の居室に設置。

A利用者、B利用者、C利用者の各居室における起床、着替え、排泄、褥瘡予防のための静養、就寝等、ベッドから車椅子、車椅子からベッドの移乗、最低5回～8回の日常生活における必須の動作で利用します。

入所利用者の居室に設置するためリフト1台につき利用者数も1名ですが、重度障害のため平均5回～8回の移乗介助には2名の職員が関わります。そのため、延べ人数は平

(別紙5)

均20名程度で、利益を被る延べ職員数で平均40名程度が肉体的な負担が軽減される効果が見込まれます。



機器の写真



建物への表示

## 2 予想される事業実施効果

介護の業界において世界的に注目される「ノーリフト」の介護手法を導入することで、人材不足の要因となっている職員の肉体的・精神的負担を大きく軽減することができます。

少子高齢化が進み介護の担い手が不足、より重度化する障害者が増える昨今、老人介護事業と競合する障害者施設に設備投資し、ノーリフトによって魅力ある職場にすることで適切な支援が出来る環境を整え、手厚い介護で日本一の障害者施設を目指し、そこからノーリフトの利便性を発信することで介護現場における人材不足が解消し、障害者と職員の安全・安心につながっていくと考えます。

(別紙5)

3 印刷物等

本事業に係わる印刷物等  
1月に広報紙「翠」において紹介予定

4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 社会福祉法人 翠浩会 (シャカイフクシホウジン)

住 所： 〒360-0832

埼玉県熊谷市小島527

代 表 者： 理事長 西田 良次 (ニシダ リョウジ)

担 当 部 署： 事務所 (ジムショ)

担 当 者 名： 支援員 高柳 愛樹 (タカヤナギ アイキ)

電 話 番 号： 048-532-0665

F A X： 048-598-3080

E - m a i l： jim@shinkoen.net

U R L： <http://www.shinkoen.net/>